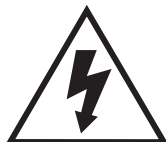




RELAY G70/G75

取扱説明書 ▶

安全上の注意事項



注意

内部を開けないでください。
感電の恐れがあります。



警告: 火災や感電を防ぐため、ねじ等を外さないでください。この中に一般使用が可能な部品はありません。
製品に問題がある場合はメーカーまでお問い合わせください。

警告: 火や感電を防ぐため、製品を雨や湿気にさらさないでください。

電波関連の認証: CC Part 15.27、FCC Part 15 B、RSS-210 (カナダ)、RSS-310 (カナダ)、EN 300 400 (ヨーロッパ)、EN 301.489 (ヨーロッパ)、電波法に基づく2.4GHz帯の基準認証、情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) の基準に基づくクラスB情報技術装置 (日本)、CISPR 22 (オーストラリアおよびニュージーランド)。

FCC Part 15に基づいて許諾されています。

EU規格との適合 (CEマーキング) は以下の弊社サイトをご覧ください。 <http://line6.com/compliance/>

注意

本製品は米国連邦通信委員会 (FCC) により定められた FCC ルールの Part 15 に基づくクラスB デジタル機器に準拠するようテストおよび製造されています。操作は以下の2つの条件下で行われます: (1) 本機は有害な干渉を引き起こさないこと。 (2) 本機は意図しない誤操作を引き起こす可能性のある干渉を含め、他からのいかなる干渉も受け入れること。

警告: 本製品の変更や修正は、Line 6 が書面にて明確に許可している場合を除き使用権利が無効となる場合があります。

無線周波数について: 本製品を、他のアンテナやトランスミッターと同一場所に設置および同時に使用することは避けてください。

注意: 本製品は米国連邦通信委員会 (FCC) により定められた FCC ルールの「クラスB デジタル機器」に準拠するようテストおよび製造されています。これらのルールは住宅への設置において有害な妨害・混信から合理的に保護されるよう定められています。本製品は電磁波を発生、使用、放射するため、取扱い説明書に従って使用されない場合には無線通信の障害の原因となることがあります。また、特定の設置方法によって障害が起きないことを保証するものではありません。本製品がラジオやテレビの受信に障害を発生させる場合には、以下の方法をお試しください。なお本製品が原因かどうかを調べるには、本製品のスイッチをオン/オフしてご確認ください。

- 受信アンテナの向きを変える、もしくは設置場所を変える
- 本製品と受信アンテナの設置場所を離す
- 本製品と受信アンテナを別回路のコンセントに接続する
- 販売店、もしくはラジオやテレビの専門技術者に相談する

このクラスB デジタル機器はカナダの ICES-003 に準拠しています。

SERIAL NO.: _____



これらの安全上の注意事項を良くお読みください。この取扱説明書は大切に保管してください

Relay G70/G75 デジタル・ワイヤレス・システムをお使いいただくにあたり、本書をよくお読みください。

1. Relay G70/G75 のマニュアル(本取扱説明書)に記載されている警告・注意事項に従ってください。
2. 本書に記載されている以外の使い方はしないでください。本製品が以下のような原因で故障した場合にはサポートサービス・修理が必要です。
 - 水などの液体がかかった、物が製品上に落下した
 - 製品が雨や湿気にさらされた
 - 異常な動作をする、パフォーマンスが著しく変化した
 - 製品を床に落とした、内部が破損した
3. 暖房器具、ラジエーター、その他の熱を発生する機器など熱源のそばに置かないでください。
4. 製品内に物や液体が入らないようにしてください。水のそばでの使用や設置は避けてください。
5. コードは踏まないでください。コードの上に物を置かないでください。引っかかりやたるみの原因となります。プラグおよび製品に接続されている部分のコードには特に注意してください。
6. 湿った布以外で製品を拭かないでください。
7. 弊社指定の付属品やアクセサリ以外のものは使用しないでください。
8. 長時間にわたり大音量で音を聞き続けると回復不可能な難聴や聴力低下などの原因となる場合があります。常に「安全な音量」を心がけるようにしてください。

システム概要

- クラス最高のサウンドクオリティを提供：
 - 24bit/48kHzの非圧縮デジタル伝送
 - クラス最高DA/ADコンバーターによる超低ノイズ伝送 (120dB以上のダイナミック・レンジ)
 - 指先から耳までがほぼ瞬時に反応する画期的な低レーテンシーを実現 (アナログ入力からアナログ出力まで1.5msec未満)
- 先進のワイヤレス技術：長年にわたって最先端のデジタルワイヤレス・システムをギタリストに提供してきたLine 6が実現した、第5世代の素晴らしいデザイン
- 先進的なデュアルレシーバー・トポロジーを採用したキャリプレート済み内蔵クアッドアンテナ
- ボディバックにロック機構搭載1/4" 入力ジャックを搭載一同梱されるロック付きプラグ、市販のギターケーブルのどちらも使用可
- フットスイッチを踏む (G70)、またはフロントパネルのボタンを押す (G75) だけで複数のギター・トランスミッターに対応できるようにデザインされたレシーバー
注：G75はオプションのリモート・フットスイッチにも対応
- 足下に置くコンパクトなストンプ・ボックス、またはアンプトップ・タイプのレシーバーを選択可能、ケーブルのルーティングやユーザー・インターフェースへのアクセスに最大限の柔軟性を実現
- ギターやシーン毎にオン/オフやゲイン、ケーブルトーンを設定可能な2系統の1/4" ギター出力から選択
- 外部チューナー接続用の専用「常時オン」出力ジャック
- 120dB以上のダイナミックレンジと24-bit精度のオーディオパフォーマンス、ワイヤレスの自由度を提供する、設定可能で画期的なXLRダイレクト出力
- レシーバー上に用意されたワイヤードギター接続用1/4" AUX入力ジャックが演奏時に最高の自由度を提供
- 単三のアルカリ電池 (同梱) または充電電池 (別売) を使用可
- 頑丈な金属製のトランスミッター&レシーバー
- アドバンスガイドは <http://line6.jp/support/manuals/> からダウンロード可能

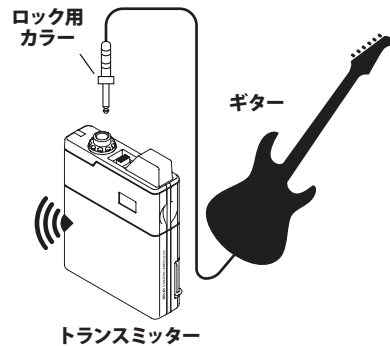
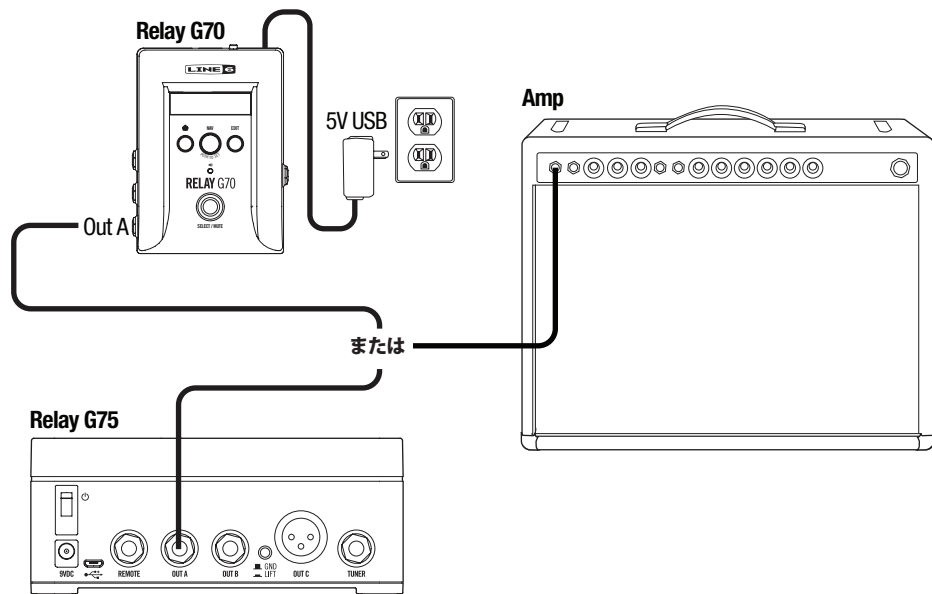
パッケージ内容：

- Relay TB516G ギター・トランスミッター
- 足下に置くストンプ・タイプのレシーバー (Relay G70のみ)
- アンプトップ・タイプのレシーバー (Relay G75のみ)
- 60cmのカラーロック機構搭載1/4" - 1/4" ストレートTSギターケーブル
- USB-A/Micro-USB ケーブル
- インターナショナルACアダプターキット付属のユニバーサルUSBパワーサプライ (5V-1A) キット
- トランスミッター識別用の6色六角ナット (緑、青、オレンジ、紫、アクア、白)：各1個)
- 単三電池2本
- クイックスタート・マニュアル、保証、ライセンス契約

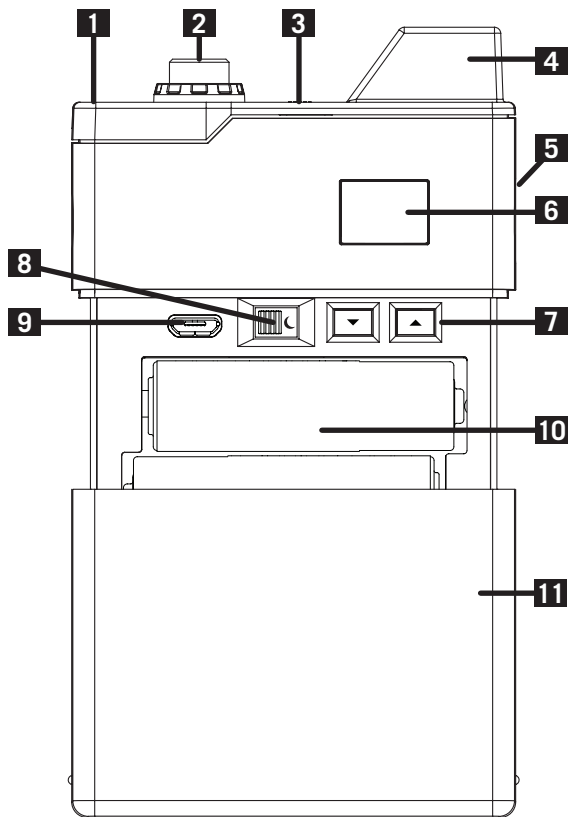
推奨アクセサリー：

- 使用するギターに合わせた追加Relay TB516G ギター・トランスミッター
- L型プラグを採用したロック機構装備ギターケーブル
- ロック機構装備の追加・予備用ストレート・ギターケーブル
- 専用のLine 6トランスミッター・ポーチ
- 交換用トランスミッター・ベルト・クリップ
- 交換用トランスミッター ID六角ナット

基本的な接続例



トランスミッターの詳細

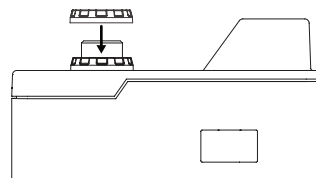


1. **バッテリーのステータス**—このLEDはトランスミッターの電源が入っていてバッテリーの残量時間が1時間以上ある場合は緑で点灯し、1時間以下の場合は黄色で点滅、30分未満の場合は赤で点滅します。

注：バッテリー・メーターはアルカリ単三電池2本でキャリブレートされているので、アルカリ単三電池ではない場合は、実際の時間は変動する可能性があります。

2. **ギター・インプット**—付属のギターケーブルを接続します。ロック用カラーの付いている方を接続し、カラーがトランスミッターの入力端子側のネジ山に留まるよう、ゆっくりと回します。**強く締めすぎないようにしてください。**ロックを外すには、カラーを反時計回りに回しケーブルを抜いてください。

注：通常の1/4"ギター・ケーブルを使用することもできます。



もとの黒いナットを外し、付属の5色のIDナットのどれかに付け替えてください。

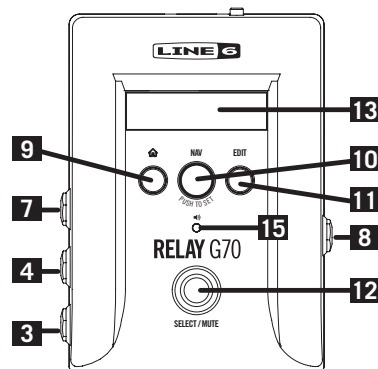
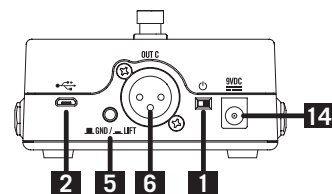
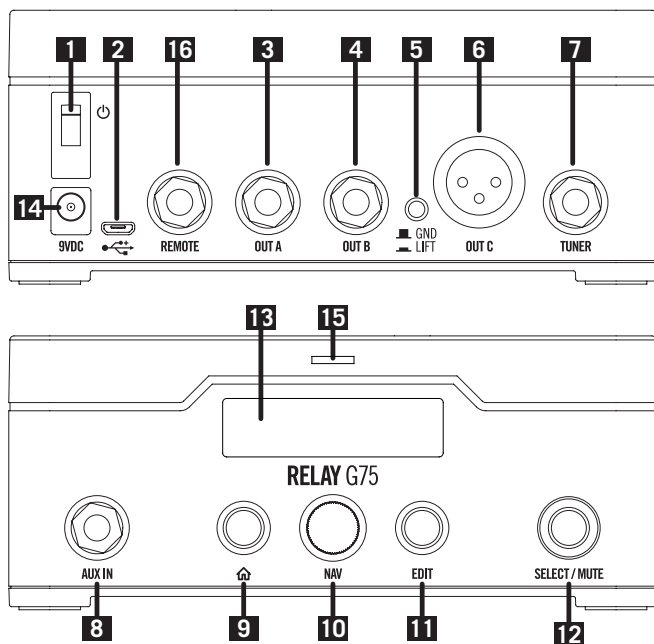
3. **パワー・オン/オフ**—電池を入れるとパワーが入ります。トランスミッターは1秒以内に自動的にレシーバーと同期します。
4. **アンテナ**—キャリブレート済みの内蔵アンテナは、通常の使い方では損傷したり変形しないようになっています。最良の結果を生むには、アンテナを金属製のファブリックやアクセサリーでカバーしたり、パーツが演奏者の身体へ直接触れたりしないようにしてください。
5. **バッテリー・ドア・リリース**—トランスミッターの両側を同時に押して、バッテリー・ドアを開けてください。詳細は **11**. をご覧ください。
6. **チャンネル・ディスプレイ**—チャンネル選択ボタン **7** を押すとチャンネル1～16のいずれかが表示されます。

7. **チャンネル選択**—チャンネル・ディスプレイの横にある上下ボタンを一度押すとチャンネル番号が点灯します。ボタンを上下に押してチャンネルを変更します。チャンネルが選択された後、チャンネル番号は2秒間点滅してチャンネルが変更されたことを示します。

注：他のトランスミッターとの重複を避けるため、上下ボタンで選択している間送信チャンネルは変更されません。

8. **オート・スリープ・スイッチ**—この機能を作動させる場合は、スイッチをこのCの位置にします。作動中に動きやオーディオが2分間検出されないと、トランスミッターは自動的にスタンバイ/スリープ・モードに入ります。この機能を使えば、毎回トランスミッターの電源を切らなくても、休憩中にギターのボリュームを下げてスタンドに乗せておくだけで電池の消耗を防ぐことができます。
9. **マイクロUSB**—今後ファームウェア・アップデートが必要になった場合には、ここにUSBを接続します。 <http://line6.jp/software/> をご覧ください。
10. **バッテリー・コンパートメント**—正常な動作には単三電池が2本必要です。
11. **バッテリードア**—2段階で開けることができます。最初の段階でチャンネル選択ボタンおよびスリープ・スイッチまでアクセスでき、次の段階でバッテリーの取り外しが可能になります。

レシーバーの詳細



- 1. パワー**—レシーバーの電源をオン/オフするために使用します。
- 2. マイクロUSB**—DC電源の供給用 (5VDC/1A)として、またファームウェア・アップデートの際に使用します。
- 3. アウトA**—ギターおよびベース・アンプ、ストップ・ボックス、マルチ・エフェクトの入力用としてフルパフォーマンスを発揮する、1/4アンバランス・アウトです。
- 4. アウトB**—アウトAと同じですが、2台目のアンプへ、あるいはペダルボード経由で別のシグナル・チェーンへ接続するのに使用できます。
- 5. グラウンド・リフト**—XLRアウトCの1番ピンの接続を切ります。
- 6. アウトC**—PAまたは他のXLRインプットに接続するのに最適な、グラウンド・リフト付きのXLRバランス・アウトです。

7. **チューナー・アウト**—ギター・レベルの1/4" アウトです。このチューナー・アウトは常時オンであり、シーン・コントロールではミュートできません。
8. **AUX イン**—有線での演奏用の予備インプットです。AUX インのモードが「常にオン」に設定されている場合、AUX インはシーンを選択した時にアサインされているトランスミッターの電源が切れている、または受信できる範囲外である時に作動します。また、新しいシーンのメニューからAUX インをどのシーンのインプットとしてもアサインする事が可能です
9. **ホーム・ボタン**—このナビゲーション・ボタンを押すと、LCDはホーム・スクリーン表示に戻ります。
10. **Nav/Select エンコーダー**—ナビゲーションのメイン・コントロールです。回して選択し、押すと選択が有効になります。
11. **エディット・ボタン**—エディット・モードに入るにはここを押してください。
12. **Select/Mute フットスイッチ・ボタン**—複数のシーンを順に切り替えるために使用します。全ての出力をミュートする、または内蔵チューナーを作動させるには、2秒間押し続けます。
注：チューナーを使用できるのはチューナー・アウトに何も接続されていない場合のみです。
13. **LCDディスプレイ**—モノクロのLCDディスプレイに、使用中のトランスミッター・チャンネルまたはインプット、使用中のアウトプット・ルーティング、バッテリーの残量などを含めたシーンの設定が表示されます。ケーブル・トーン、ゲインおよび初期設定なども表示されます。
14. **9VDC イン**—オプションの9VDC 500mA DCアダプターを接続します。
15. **オーディオLED**—オーディオを受けると緑に光ります。赤になった場合はクリップ(過大入力)を示しています。
16. **リモート (G75のみ)**—モメンタリー・フットスイッチを接続して、G70のように足下でシーンの切り換えが可能です。

オート・スキャンを使用して新しいトランスミッターを追加

G70/75レシーバーを使用している場合、複数のトランスミッター間をスイッチひとつで切り替えられます。トランスミッターをオン/オフせずに、素早く安全に楽器を変更でき、大変便利です。オート・スキャン機能を使って新しいトランスミッターを設定する手順は下記の通りです。

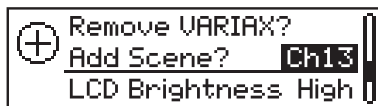
- エディット・メニュー内で「ADD SCENE」を選択し、エンコーダーを押します。
- AUTOと表示されるまでエンコーダーを回し、エンコーダーを押します。
- クリーンな状態でスキャンをするため、トランスミッターの電源を切るようにディスプレイに表示されます。
- 新しいトランスミッターの電源が切れている状態で「Next」を選択し、エンコーダーを押します。
- レシーバーがスペクトラムをスキャンしてクリーンなチャンネルを勧め、トランスミッターの電源を入れ、チャンネルを設定するように促します。
- 設定が終わったら「Next」を押し、終了するために「OK」を押します。スキャンしないで直接チャンネルを選択することも可能です(次の「手動で新しいトランスミッターを追加する」をご覧ください)。



手動で新しいトランスミッターを追加する

G70および75レシーバーを使用している場合、演奏者は複数のトランスミッター間をスイッチひとつで切り替えることができます。トランスミッターをオン/オフせずに、素早く安全に楽器を変更できるので、大変便利です。ただし、使用条件として各トランスミッターが別々のチャンネルに設定されている必要があります。ワイヤレスに慣れている方向けの、マニュアル・モード（スキャンなし）での新しいトランスミッターを設定する手順は次の通りです。

- エディット・メニュー内で「Add Scene?」を選択し、エンコーダーを押します。
- エンコーダーを回して目的のチャンネルを選択します。
- エンコーダーを押して新しいトランスミッターを追加し、新しいシーンを作成します。



1台のトランスミッターに新しいシーンを追加

G70およびG75のユーザー・インターフェースは、演奏者がスイッチまたはボタンひとつで、インプットおよびアウトプットを素早く切り替えられるようデザインされています。各シーンには、インプット・ソース（トランスミッター1～トランスミッターX、AUXイン）およびアウトプット先（アウトプットA、B、C、またはA、B、Cのさまざまな組み合わせ）の固有の組み合わせが保存されます（詳しくはエディット・メニューを参照してください）。既存のトランスミッターに新しいシーンを追加するには、「手動で新しいトランスミッターを追加する」の手順に従い、チャンネルを各シーンの番号と同じに設定してください。新しいシーンのゲイン、ケーブル・トーンまたはアウトプット・ルーティングを変更するには、エディット・メニューを使用してください。覚えておきやすくするため、各シーンの名前を付け直すこともできます。

ステージ上でLine 6製の他のワイヤレス機器と一緒に使用したい場合は、以下の設定を試してみてください。

Relay G70/75 の 設定チャンネル:	Relay G30/50/55/90 および XD-V 30/35/55/70/75 で 使用可能なチャンネル
1	2, 3, 5, 7, 10, 13, 14
1, 2	6, 7, 10, 13, 14
1, 2, 3	6, 7, 10, 13, 14

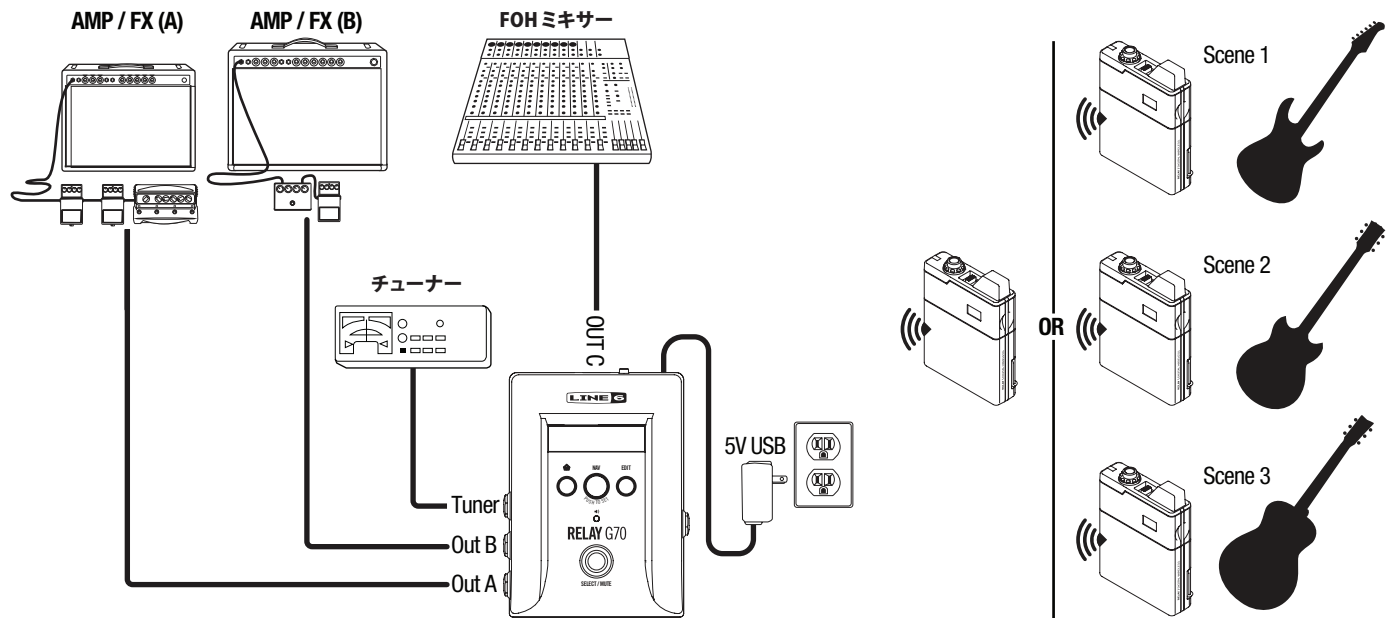
システム仕様	
レンジ	> 60m 屋外で見通しが確保されている場合*
レーテンシー	< 1.5msec
周波数特性	10 – 20kHz, +1dB / -3dB
THD+ノイズ	< 0.05% (1kHz @ -10dBFS)
ダイナミック・レンジ	> 120 dB A weighted
動作帯域	2.4 GHz ISM Worldwide
動作温度	-10 °C ~ 50 °C

*注：実際のレンジは反射、干渉および吸収などを含むRF環境に依存しています。

アドバンス・ユーザー・ガイドは以下よりダウンロードできます

<http://line6.jp/support/manuals/>

G70 の接続例 - 2つのシグナル・チェーンに加えPAにダイレクトに接続



IC- 6768A-TB516

Canada 310



Line 6, Inc.:

26580 Agoura Road,
Calabasas, CA 91302-1921 USA

The POD, Clifton House, Butler's Leap
Rugby, Warwickshire, United Kingdom, CV 21 3RQ